

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 5 区分

【発行日】平成 27 年 9 月 24 日 (2015.9.24)

【公表番号】特表 2015-500767 (P2015-500767A)

【公表日】平成 27 年 1 月 8 日 (2015.1.8)

【年通号数】公開・登録公報 2015-002

【出願番号】特願 2014-547806 (P2014-547806)

【国際特許分類】

B 6 0 N 2/08 (2006.01)

【F I】

B 6 0 N 2/08

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 27 年 8 月 3 日 (2015.8.3)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 0 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 0 9】

好ましくは、ロック手段と協働しないレバーの端部は、形状嵌め、圧力嵌め及び／又は材料接続によってハンドルに接続される。好ましくは、ハンドルは、レバー上に又はレバー内に嵌められ、且つ形状嵌め及び／又は圧力嵌めによって、特にラッチ接続によってレバーに接続される。好ましくは、レバー及び／又はハンドルは、ラッチ接続用の手段を有する。更に好ましくは、ハンドル及び／又はレバーは安全手段を有し、安全手段によって、ハンドルが、不適切な作動によりレバーから解放されることを防止する。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 6】

図 3 a は、当業者に知られるロック手段 6 と協働する解放装置を示し、ロック手段 6は、一般に車両シートに接続されるアッパーレール 5 を、車両シートの本体に接続されるロアレール 1 3 に対してロックする。図 3 a では、解放手段はその受動位置にあり、解放手段はばね手段 3 によって受動位置へとプレテンションをかけられ、解放手段は受動位置ではロック手段 6 と解放するように協働しない。レバー 2 は、特に形状嵌め及び／又は圧力嵌めによってハンドルが接続され得る接続領域 7 を有することが、当業者に認識される。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 8】

図 3 a 及び図 3 b に記載の解放装置は、実質的に図 4 a 及び図 4 b に示され、図 4 a は、その解放位置にある解放装置を示し、図 4 b は、その受動位置にある解放装置を示す。この場合、ハンドルがレバー 2 上に又はレバー 2 内に嵌められ、従って、不適切な作動に

よりハンドルをレバーから取り外すことができないように、レバー 2 に接続される。ばね要素 3 は、好ましくは、ハンドル 8 とレバー 2 との間の接続がいかなる騒音をも発生させないことを確実にする。好ましくは、締結手段 1 2、特にラッチ締結手段が、ハンドル 8 とレバー 2 の間に設けられる。ハンドル 8 とレバー 2 の間の前記締結手段 1 2 は、ハンドル 8 が不適切に作動されたときに、すなわち、例えば反時計回りに回転されすぎたときに、図 4 c に示すように、ハンドルがレバーから解放されるように、好ましくは設計される。好ましくは、締結手段 1 2 は、レバー 2 及び / 又はそれに続く機構が損傷しないように、その後レバー 2 から解放される。このような「設定された破断点」を本発明に係る装置の異なる点にも設け得ることが、当業者には理解される。不適切な負荷がもはやハンドル 8 に加えられなくなるとすぐに、ばね 3 がハンドル 8 及び / 又は締結手段 1 2 をその元の位置（図 4 b を参照）に戻すように、ハンドル 8 とレバー 2 の間の接続、締結手段 1 2 及び / 又はばね手段 3 を設計することができることも、当業者には理解される。解放装置は、結果として損傷を受けずに再び使用されることができる。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 0

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 0】

- 1 解放装置
- 2 レバー
- 2 . 1 ばね手段 3 のための凹部
- 3 ばね手段
- 3 . 1 第 1 脚部
- 3 . 2 第 2 脚部
- 3 . 3 形状嵌め手段、くぼみ
- 3 . 4 凹部、ねじ山付き凹部
- 4 ダンパー
- 5 アッパーレール
- 5 . 1 アッパーレールの凹部
- 6 ロック手段
- 7 ハンドル 8 のための接続領域
- 8 ハンドル
- 9 受動位置
- 1 0 解放位置
- 1 1 不適切な位置
- 1 2 締結手段
- 1 3 ロアレール
- 1 4 締結手段
- 1 5 締結手段、突起

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

レバー（2）を有し、前記レバー（2）の一端にハンドル（8）が設けられ、前記レバ

ー(2)の他端がロック手段(6)と協働する解放装置(1)であって、前記レバーに前記レバーの受動位置へとプレテンションを与えるばね手段(3)を有し、前記ばね手段(3)は前記レバー(2)を自動車シートのアップパーレール(5)に回転可能に取り付け、前記解放装置は、前記ハンドル(8)の不適切な負荷の場合に前記レバー(2)が損傷するのを防ぐ安全手段を有し、前記ばね手段(3)は前記安全手段の一部である、解放装置。

【請求項2】

前記ロック手段(6)は、前記アップパーレールをロアレールに解放可能にロックする、請求項1に記載の解放装置(1)。

【請求項3】

前記ばね手段(3)は、ワイヤから製造される脚ばねである、請求項1又は2に記載の解放装置(1)。

【請求項4】

前記脚ばね(3)のワイヤは、前記レバーの凹部(2.1)と前記アップパーレール凹部(5.1)の両方を貫通し、結果として回転軸受として機能する、請求項3に記載の解放装置(1)。

【請求項5】

前記ばね手段は、一方で前記レバー(2)に接続され、他方で前記アップパーレール(5)に接続される板ばねとして設計される、請求項1又は2に記載の解放装置(1)。

【請求項6】

前記レバーは、一体的に製造された板金曲げ部品である、請求項1から5のいずれか1項に記載の解放装置(1)。

【請求項7】

前記アップパーレールは少なくとも部分的に前記レバーを受け入れる、請求項1から6のいずれか1項に記載の解放装置(1)。

【請求項8】

前記ロック手段と協働しない前記レバーの端部は、形状嵌め、圧力嵌め及び/又は材料接続によってハンドルに接続される、請求項1から7のいずれか1項に記載の解放装置(1)。

【請求項9】

前記ハンドルは前記レバー上に又は前記レバー内に嵌められ、形状嵌め及び/又は圧力嵌めによって、前記レバーに接続される、請求項8に記載の解放装置(1)。

【請求項10】

前記ばね手段(3)は、前記不適切な負荷が前記ハンドル(8)に加えられなくなるとすぐに前記ばね手段(3)が前記ハンドル(8)をその元の位置に戻すように設計される、請求項1から9のいずれか1項に記載の解放装置(1)。